



役場職員に質問する高校生たち



役場職員を交えたオリエンテーションの様子



参加者と審査員の皆さんで記念撮影



最終プレゼンには約 50 名の観覧者が集まりました

最終プレゼンを行う「チーム科学部」



河川敷での聞き取り調査



アイデアを練るため実際に利根川を視察



最終プレゼンを行う「チーム三和」の皆さん



最終プレゼンを行う「チーム高校生会」



夜遅くまで話し合いは続きました

歴史民俗資料館で歴史を学ぶ高校生たち



「高校生のアイデアでまちを活性化!!」

境町高校生まちづくりアイデアソン

利根川河川敷を境町の自慢に！
『こんな河川敷だったら楽しいな。を実現するプランを考えよう！』を課題に、高校生たちが真剣に考え抜いたアイデアは大人も目を見張るものばかりでした。

高校生が本気で境町のことを考えました

8月17日、境町が抱える課題や地域活性化について高校生が政策立案を行うコンテスト「境町高校生まちづくりアイデアソン」の発表会が境町役場4階会議室で開催されました。

このコンテストは、4月から境町参与を務める慶應大学1年の塙佳恵さんが企画し、「町内を流れる利根川の河川敷を町の自慢にするアイデア」について、境町高校生及び境町在住の高校生、町と包括的な連携に関する協定を結んでいる麗澤高校(千葉県)の生徒6チーム22人が参加し、16日から1泊2日の合宿を行い、遊び心いっぱいのアイデアを練り上げました。最終発表会では、集まった約50人の町民の前でパワーポイントを使用して、プレゼンテーションを行いました。

参加した各チームには、大学生のメンター(指導者・助言者)が付き、高校生の自由な発想を生かしながらも、アイデアを実現するために必要なデータ収集や、独自性などについて助言するなど、協力してアイデアを固めていきました。

最優秀賞に選ばれたのは、利根川の水面に境町と利根川の歴史をプロジェクトクシヨンマッピング(デジタル映像を建物などに投影すること)で映し出すというプラン。境町高校3年の女子生徒4人の「チーム三和」による提案で、歴史民俗資料館で調べた、古くは河岸

のまちとして栄え、様々な物資を舟で運搬した利根川の歴史を土台にプランを練り上げました。映像の投影後にはスカイランタンで幻想的な景観を演出し、実現する資金としては、ふるさと納税の寄付金やクラウドファンディング(インターネットを通じて資金の出資や協力を募ること)での資金募集を見込んでいました。

このほか、優秀賞として、利根川河川敷にドッグランを作る提案や、人が入れる球体「ウォーターバルーン」で夏に川をさかのぼるレースなどのプランが提案されました。

審査した橋本町長は「提案されたプランはすべて検討し、良いものは実施していきたい。こういった提案から少しでも境町のまちづくりに興味を持ってもらい、自分たちの提案でまちは動くんだということを実感してもらいたい」と述べました。

企画した塙参与は「それぞれの問題意識やアイデアからアプローチする、多様なプランが提案され、高校生に境町を考えてもらうきっかけになったと思います。今後は、町の全面的な協力を生かして、高校生の提案を出来る限り実現させていきたいです。」と話しました。



境町高校生まちづくりアイデアソン
はなわ よしのり
実行委員会 委員長 塙 佳恵